

鮫底延縄漁業試験

趣旨 沿岸漁業は、沿海の資源を如何に培養し現状を維持するかという事と他方においては沖合への活路を見出す方法と考へられる、当场としては20吨級漁船のもてる能力を最大に利用すべく、山口県萩市で好成績を収めている東支那海の鮫底延縄漁業を導入するため当漁業試験と併せて海洋観測、漁場調査を実施した

試験方法

使用船	試験船	ちどり丸 (19.57ton 50HP)	
従事者	調査員	2名	船員 11名
漁場	東支那海	農林漁区	260 270 461 492 513 各漁区
使用漁具	幹縄	綿糸7匁付	240尋
	枝縄	ノ	4尋
	麻縄	3ツ打	2.5尺
	真鍮線	16番鎖	2.5尺
	枝間	30尋	8本付
	釣	4寸	
	浮子玉	硝子玉 経 1.1尺	} 両端及5鉢毎
	錨	800匁 両爪	
	鉢数	40鉢	
	餌料	冷凍サンマ	
試験期間	昭和31年	6月17日	~6月26日

經 過

月日	操業 番号	位 置	天候	風向 力	水 温					透明 度	水色	入繩 始時	入繩 終時	揚繩 始時	揚繩 終時	入繩 方向	潮流	水深	圧質	鉢 数	漁獲	
					0m	25	50	100	150													200
6.18		31°—00'N 130°—10'E	bc	W2	24.2			17.4	16.4	15.2		2										
19		30°—26'N 128°—08'E	bc	S1	26.6		22.5	18.5		13.8		2										
20	1	30°—00'N 126°—30'E	c	S1	26.0	24.2	22.0					3	h m 4 30	h m 5 45	h m 6 45	h m 10 30	WNW	NNE	85 m	40	ヤジフカ 7尾	
〃	2	30°—00'N 126°—37'E	c	S1	26.0	24.2	20.0					3	19 00	20 15	21 00	01 30	NNW		80 m	40	〃 4	
21	3	30°—05'N 126°—35'E	c	S1	24.9	16.2	15.5					22	3	4 45	5 35	6 20	8 35	W		92 m	20	〃 12
21	4	30°—08'N 127°—00'E	bc	SE	25.8	18.4	16.2	16.0				20	3	19 08	20 08	20 35	2 40			105 m	40	〃 2
22	5	28°—50'N 124°—55'E	c	sw3	25.1	23.8	21.5					22	2	4 15	5 15	6 20	9 30	NW	NE	90 m	30	
24	6	29°—30'N 125°—30'E	c	N1	24.2	16.4	16.4					21	3	4 15	4 55	6 00	9 00	E		70 m	30	
25		31°—16'N 128°—23'E	bc	NE2	24.9	23.2		17.3				24	2									
計	6																					

結 果

本試験においてはヤマトスナホリムシ *Cirolana japonensis* の分布広く餌料に対する食害甚だしく投縄を終了してから約一時間の後揚縄に掛つたが餌の付いて来るもの殆んどなかつた。

操業成績は6回操業で使用鉢数200鉢（釣数1,600本）に対してヤジフカ25尾にすぎなかつた、釣獲率1,562であり最高7,500最低0,000であつた、魚体は25尾で38×200匁平均目廻1.5匁にすぎぬ小さいものであり、一般にサメは魚価の安いものでありこれを漁業対象として経済的に成立せしめるためには魚価の安いのを量で補はなければならぬので、その為にも分布及密度の普通性を持たなければならぬ然るに上記の様な成績であつたので本試験を無理に押しても意味が薄い。